

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0272701079		
法人名	特定非営利活動法人双松福祉会		
事業所名	グループホームわらび苑		
所在地	青森県三戸郡階上町大字角柄折字餅粟久保4番地1		
自己評価作成日	令和3年7月10日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>周囲の環境が良いことが特徴であると考え、それを活かしたレクリエーションを行っています。ボランティア活動が盛んなため、利用者の生活を側面から支えてもらっています。</p>

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	令和3年11月2日		

<p>雑木林や畑の自然に囲まれた場所に平成16年に設立したホームである。地域の方々との繋がりが深く、ボランティア双松隊と自主消防隊を結成して、環境整備や夏祭り等行事の手伝い、災害時の協力体制が築かれている。「笑顔をたやさず、心かよう会話、四季を楽しむ」のホームの三つの心を基にして、利用者が安心して気持ちや思いを表せるように接し、「どのように過ごしたいのか」を確かめながら、日々のケアを行っている。コロナ禍で三密・外出制限はあるが、ひな祭りや七夕等の行事食、階上早生そばのテイクアウト、秋の味覚狩り会、緑豊かな周辺の散歩等、工夫して楽しめるように支援している。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスを意識した理念を作成し、職員の意識付けをしている。また、職員個々の目標を掲げ、励行している。その結果、地域住民との繋がりが深い。	三つの心、「笑顔を決やさず、心かよう会話、四季を楽しむ」に加えて「緑豊かな地域に囲まれ、地域の方々と共に歩んでゆく」をホームの理念としており、ホーム内の随所に掲示している。会議の場で確認し、日々のケアに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティア組織を作り、周辺の環境整備や利用者との昼食会等を通じて交流を図っている。	地域住民による「ボランティア双松会」や「自主消防隊」を結成しており、草取り等の環境整備や夏祭り(語り部や手踊り等コロナ禍では中止)の手伝い、災害時の協力体制を築いている。年1回、ボランティアの研修・懇親会を開催し、繋がりを深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティア組織の活動を通し、利用者の生活を側面から支援していただいている。年1回は地域の方と利用者が会食をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ヒヤリハットの報告や看取りを含めたシビアな問題等を議題に挙げて、適切な助言等をもって活かしている。	利用者や家族代表、地域住民代表、有識者、行政職員に参加してもらっている。ホームの現状や行事、研修報告を行い、家族や地域住民から質問・要望が出されており、意見交換の場となっている。現在はコロナ禍のため開催を延期としている。	コロナ禍のため開催が困難ですが、この間のホームの現状や問題点等を書面で配布し、意見・要望を頂けるような方法を検討してははいかがでしょうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を通してアドバイスや助言をいただいている。	地域包括支援センター職員と連絡を取り合っている。コロナ禍のため、衛生用品の点検・補充、ワクチン接種の予定等を頻回に連絡している。また、困難事例等の助言をいただいている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除宣言と称し、それを各所に掲示して職員に啓発している。管理者は身体拘束を行わないよう職員に周知しながら必要に応じて都度職員と話し合い、より良い方法を探している。また、定期的に身体拘束委員会を行っている。	「身体拘束排除宣言」を明示し、身体拘束は行わない方針である。年4回、身体拘束委員会で研修を行い、理解を深め、日常のケアについて注意し合っている。玄関や居室に施錠はせず、自由に出入りできるようにしている。利用者の落ち着かない様子があれば、一緒に散歩して気分転換を図ったり、思いを聞く等の対応をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム長が研修に参加し、虐待が行われないうち注意している。今後、職員にも積極的に研修に参加してもらいたいと考えている。また、コンプライアンスの会議を設けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム長が研修に参加して学んでいる。前例はないが、必要であれば関係機関等に相談しながら支援したいと考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際には十分な説明やアセスメントを行い、双方が納得したうえで契約している。退居時は、利用者と家族の心情に配慮しながら行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が意見や要望を聞き入れやすい関係を作るようにしている。また、利用者の健康状態や生活状況を定期的に報告している。	毎月便りを配布しており、表情豊かな写真や利用者の暮らしぶりを掲載するほか、体調管理や予定を伝えている。コロナ禍では、窓越しでの面会や電話連絡を密に行い、利用者の状態を伝えながら、家族からの意見・要望を聞くようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に連絡会議を行い、各事業所の代表者が問題点や近況報告を話し合っている。	毎月のミーティングで、ヒヤリハットや事故報告、行事報告、業務内容検討、ケア検討を行っている。職員から多くの意見が出ており、管理者・職員全体でホームの運営に関わっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	不定期であるが昇給を行っている。しかし、十分とはいえ今後には福利厚生充実や人事考課に取り組んでいきたいと考えている。資格取得者には特に配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要な研修には積極的に参加させている。また、内部でビデオ研修も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同地区の協議会が主催する研修等に積極的に参加させている。グループワーク等を通して同業者との交流が図られている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	まずは本人の要望をしっかりと傾聴することが重要と考えて実践している。家族または関係機関から事前にアセスメントをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者はもとより家族の要望もしっかりと傾聴することがアセスメントの第一歩と考え実践している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その方のニーズを把握するよう努め、あらゆる資源の活用を視野に入れて入居対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者個々のできることを把握し、楽しみながら職員と共に手作業やレクリエーションを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話等で家族と意思疎通を行っている。可能な限り家族の要望に応えるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの理容所や病院へ付き添う等して、できる限り希望に沿うようにしている。馴染みの友人等が面会に来たときは、再訪を促している。	親戚や友人の面会が多く、ゆっくりしてもらえるように受け入れている。また、電話を取り次ぐ等、これまで大切にきた関わりを継続できるように支援している。現在はコロナ禍のため面会・外出の制限をしており、正月外泊等は状況により実施の判断をする予定である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格や嗜好や趣味を把握するよう努めている。孤立やトラブルを避けるため食事席の変更等、臨機応変に対応している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居の際にはサマリー等で退居先に情報提供している。また、退居してからも容体の確認等を家族と行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期的にカンファレンスをして意見交換を行い、より快適に暮らせるよう定期的に検討している。	利用者が安心して気持ちや思いを表せるように、ゆったりと受け止め、意向の把握に努めている。毎月のミーティングで利用者の要望を確認し、全職員で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居担当者はアセスメントを十分に行い、職員間で共有している。また、入居後も定期的にカンファレンスを行って評価をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	口頭や記載による申し送りを行い、職員間で心身の状態の変化に注意合っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にケアカンファレンスを行い、職員間で意見交換をしてより良いケアの方向性を模索している。	その人らしく暮らし続けることができるように、利用者や家族の意見・要望を聞き、職員間で話し合っている。介護計画は具体的な問題提起や解決策を記載したものとなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	定期的に職員間でカンファレンスを行い、個々のケアの見直しを行っており、介護計画にも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通帳の預かりのほか、家族の支援が希薄な方の予後の相談を行政と行う等の支援をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方によるボランティア組織の支援により、夏祭りの手伝いや周辺環境整備により利用者の生活を支援していただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人が望む病院で受診できるように支援している。また、受診介助も行っている。	入居時にかかりつけ医や受診状況を把握し、利用者・家族が希望する医療機関を受診している。基本的に職員が受診介助しており、必要に応じて家族も同行している。状態の変化があれば、併設施設の看護師に相談しており、受診結果は家族と共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	記載や口頭による申し送りにより職員間で情報の共有に努めている。必要に応じて看護師から指導をいただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づ	入院等が生じた場合は、日々の健康状態等、できる限り情報提供をしている。また、適時お見舞いに行き、容体の確認を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に重度化の指針を説明し、書面にて合意をいただいている。医療依存度が増してきた場合等は、その都度家族と話し合いを行っている。	「重度化した場合における指針」を基に、入居時に利用者家族に説明している。状態の変化に応じて、家族や主治医、看護師と話し合いをして、方針を確認している。これまで自然経過での看取り介護を8例経験しており、希望があればできるだけ受け入れるように努力している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に行われるAED及び心肺蘇生の研修には積極的に参加させている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域住民による自主消防隊が結成されており、定期的に夜間を想定した消防訓練を行っている。	年2回、夜間を想定した避難訓練を行っている。職員と利用者が一緒に行っている。また、地域住民による自主消防隊の協力を得ることができる体制である。災害に備えて、食料や飲料水、衛生用品、ストーブ等をホーム内に用意している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症のレベルに関わらず、利用者の尊厳を大切に声掛けを行っている。	利用者の言動を否定したり、拒否することなく、理念を基に、ゆったりと向き合いながら、どのようにしたいのかを受け止めるようにしている。声かけや対応について、職員間でも話し合うようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示ができない利用者には、日々の表情や行動を観察して、喜怒哀楽を読み取るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個別柔軟に対応したいと考えているが、利用者の重度化に伴って日課に沿った対応になりがちとなっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容に気を配っている。特に口の周りや整髪に気を付けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の有する能力に応じて、食事に限らずリネン等の作業を行ってもらっている。	利用者の好き嫌いや希望を取り入れながら、職員が献立を作成している。利用者の嚥下状況に合わせて、トロミ食やキザミ食等、手作りの食べやすい食事を提供している。もやしのヒゲ取りや茶碗拭きを一緒に行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量を把握し、主治医に報告している。必要に応じて高カロリー栄養食等で捕食している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔内ケアを確実にやっている。必要に応じて往診時に歯科医から助言をいただいている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	可能な限り自立支援を促し、トイレ誘導を行っている。また、定期的に見直しを行っている。	排泄パターンを把握し、事前誘導して日中はトイレでの排泄を大切にしている。誘導は静かにさりげなく声掛けしてる。定期的に利用者の状況に合わせてオムツ等の使用を見直している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	可能な限りメニューはバランスの良い献立作りに取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	入浴は週2回を基本としている。健康状態に応じた入浴方法としている。	週2回のペースで利用者の希望(長風呂、2回つかりたい等)を聞きながら、利用者の清潔保持に努めている。リフト浴も設置しており、必要に応じて使用している。安全で気持ち良い入浴となるように心がけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の状態に合わせて、日中の臥床・離床時間を決めている。日中の疲労感を配慮しつつ夜間の安眠を図れるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の内服薬の情報を現病歴と共に個人記録に記載して一目で分かるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ケアカンファレンスや日々の気付きをノートに記載している。職員間でその方の状態像を把握し、日々のケアに役立っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	定期的にドライブ等の外出の機会を設けている。また、家族の参加を募っている。	季節の行事、お祭り、外食、ドライブ等で楽しめるような年間行事を実施している。現在はコロナ禍のため、イベントや外出を自粛しているが、ホームで誕生会やひな祭り、節分の行事食、秋の味覚狩り会、周辺の散歩等、工夫して楽しめるように支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の有する能力に応じて柔軟に対応している。自己管理される場合は、紛失や盗難防止の観点から管理者が定期的に所在確認をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話の支援や手紙の代筆をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内にはなるべく馴染みのものを持ちこんでいただいている。廊下等の動線には、障害となる物を置かないようにしている。	ホールや廊下は広く、天井は高く開放感がある。ホールにはソファ、食卓、畳の小上がりがあり、家庭的な雰囲気を感じることができ、思い思いにくつろぐことができる環境である。各居室、ホールに温湿度計を設置して適切に管理している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内に利用者がテレビ観賞をするスペースがあり、そこで各々がくつろいでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全に考慮しつつ、できる限りその方の馴染みの物を持ち込んでいただけるようにしている。	使い慣れたものを持って来てもらえるように働きかけており、仏壇や小物家具、家族写真等の持ち込みがある。また、利用者の状況に合わせて安心して過ごせるその人らしい居室になるように支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	動線には障害となる物は置かないようにしている。		